

<b>授業科目</b>  がん薬物療法看護演習	<b>科目概要・形式</b>  2単位 60時間(30 コマ) 演習科目	<b>配当年次</b>  博士前期1年次 後期開講	<b>オンライン参加</b>  可・不可 「下記6, 7 参照」
<b>科目責任者</b>	鳴井ひろみ		
<b>担当者</b>	鳴井ひろみ、本間ともみ、千葉典子（非常勤）、小野晃子（非常勤）、越後優子（非常勤）		
<b>1. 科目のねらい・目標</b> <ねらい> がん薬物療法を受ける患者に生じる有害事象を早期発見し、対処方法およびがん薬物療法に伴う患者・家族の苦悩を緩和する方法をエビデンスをもとに検討し、患者・家族の生活の質向上のためのセルフケア能力を高める方略を探究する。 <目標> 1) がん薬物療法を受ける患者・家族のセルフケア能力を高めるための支援のあり方について説明できる。 2) がん薬物療法を受ける患者の意思決定を支える支援のあり方について説明できる。 3) 外来がん薬物療法を受ける患者・家族の生活を支援するための病院から地域医療への連携および多職種との協働の実際について説明できる。 4) がん薬物療法を受ける患者・家族のニーズに基づき、セルフケア能力を高めるための教育支援について計画を立案し実施・評価できる。 5) がん薬物療法を受ける患者・家族のセルフケア能力を高めるためのグループアプローチの実際とファシリテーターとしての役割を理解できる。 6) 患者・家族ががん薬物療法を継続するために必要な高度実践看護師としての介入について検討できる。			
<b>2. 授業計画・内容</b> 1回：がん薬物療法の有害事象とマネジメント、セルフケア支援：骨髄抑制①（小野・鳴井） 骨髄抑制の有害事象の発生機序とマネジメント方法について文献検討・討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 2回：がん薬物療法の有害事象とマネジメント、セルフケア支援：骨髄抑制②（小野・鳴井） 骨髄抑制の有害事象のセルフケア支援について文献検討・討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 3回：がん薬物療法の有害事象とマネジメント、セルフケア支援：消化器症状①（小野・鳴井） 消化器症状の有害事象の発生機序とマネジメント方法について文献検討・討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 4回：がん薬物療法の有害事象とマネジメント、セルフケア支援：消化器症状②（小野・鳴井） 消化器症状の有害事象のセルフケア支援について文献検討・討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 5回：がん薬物療法の有害事象とマネジメント、セルフケア支援：末梢神経障害、皮膚障害①（越後・鳴井） 末梢神経障害、皮膚障害の有害事象の発生機序とマネジメント方法について文献検討・討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 6回：がん薬物療法の有害事象とマネジメント、セルフケア支援：末梢神経障害、皮膚障害②（越後・鳴井） 末梢神経障害、皮膚障害の有害事象のセルフケア支援について文献検討・討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 7回：がん薬物療法を受ける患者・家族の心理社会的特徴と援助①（鳴井） がん薬物療法を受ける患者・家族の心理社会的特徴の理解 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 8回：がん薬物療法を受ける患者・家族の心理社会的特徴と援助②（鳴井） がん薬物療法を受ける患者・家族の心理社会的特徴と援助についての文献検討・討議 【プレゼンテーション】【ディスカッション】 9回：がん薬物療法を受ける患者・家族の生活の質の向上のための看護①（鳴井・本間） がん薬物療法を受ける患者・家族の生活の質の向上のために必要な看護について最新論文を検索し			

- 概要をまとめ発表する  
【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 10回：がん薬物療法を受ける患者・家族の生活の質の向上のための看護②（鳴井・本間）  
検索した最新論文の内容から看護のアセスメントと患者・家族の生活の質向上のための支援方法への活用について討議する  
【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 11回：がん薬物療法を受ける患者・家族のセルフケア能力向上のための支援方法①（鳴井・本間）  
がん薬物療法を受ける患者・家族のセルフケア能力向上のための支援方法についての最新論文を検索し概要をまとめ発表する  
【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 12回：がん薬物療法を受ける患者・家族のセルフケア能力向上のための支援方法②（鳴井・本間）  
検索した最新論文の内容から看護のアセスメントと患者・家族のセルフケア能力向上のための支援方法への活用について討議する  
【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 13回：がん薬物療法を受ける患者の意思決定支援①（鳴井）  
経験事例について、これまでの意思決定支援に関して学んだ内容を踏まえて分析して資料を作成し、がん薬物療法を受ける患者の意思決定支援について討議する  
【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 14回：がん薬物療法を受ける患者の意思決定支援②（鳴井）  
経験事例について、これまでの意思決定支援に関して学んだ内容を踏まえて分析して資料を作成し、がん薬物療法を受ける患者の意思決定支援について討議する  
【プレゼンテーション】【ディスカッション】
- 15回：外来がん薬物療法の看護 フィールドワーク①（静岡県立静岡がんセンター）（鳴井）  
・外来がん薬物療法を受ける患者への看護師の活動の実際  
化学療法センター見学（概要・特徴、カンファレンス参加、看護実践の見学）  
【フィールドワーク】
- 16回：外来がん薬物療法の看護 フィールドワーク②（静岡県立静岡がんセンター）（鳴井）  
・外来がん薬物療法を受ける患者への看護師の活動の実際  
化学療法センター見学（看護実践の見学、チームアプローチの実際）  
【フィールドワーク】
- 17回：外来がん薬物療法の看護 フィールドワーク③（静岡県立静岡がんセンター）（鳴井）  
・外来がん薬物療法を受ける患者への看護師の活動の実際  
外来薬剤部との連携、抗がん剤の取り扱い  
【フィールドワーク】
- 18回：外来がん薬物療法の看護 フィールドワーク④（静岡県立静岡がんセンター）（鳴井）  
・外来がん薬物療法を受ける患者への看護師の活動の実際  
化学療法センター看護師・がん看護専門看護師とのディスカッション  
【フィールドワーク】
- 19回：外来がん薬物療法を受ける患者・家族の生活を支援するための病院および地域の多職種との連携・協働①（鳴井・千葉）  
外来薬剤部の見学、カンファレンス参加【見学】
- 20回：外来がん薬物療法を受ける患者・家族の生活を支援するための病院および地域の多職種との連携・協働①（鳴井・千葉）  
病院内および地域の薬局等の多職種との連携・協働の実際【見学】
- 21回：がん薬物療法を受ける患者・家族に対する教育①（鳴井・本間）  
経験事例を基に患者・家族に対するセルフケアのための教育について検討する  
学習ニーズをアセスメントし、学習計画を立案し、実施・評価する（ロールプレイ）  
【ロールプレイ】【ディスカッション】
- 22回：がん薬物療法を受ける患者・家族に対する教育②（鳴井・本間）  
経験事例を基に患者・家族に対するセルフケアのための教育について検討する  
学習ニーズをアセスメントし、学習計画を立案し、実施・評価する（ロールプレイ）  
【ロールプレイ】【ディスカッション】
- 23回：がん薬物療法を受ける患者・家族に対する教育③（鳴井・本間）  
経験事例を基に患者・家族に対するセルフケアのための教育について検討する  
学習ニーズをアセスメントし、学習計画を立案し、実施・評価する（ロールプレイ）  
【ロールプレイ】【ディスカッション】

<p>24回：がん薬物療法を受ける患者・家族に対する教育④（鳴井・本間）  21回～23回の事例分析を基に、がん薬物療法を受ける患者・家族に対する教育における高度実践看護師の役割について討議する  【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p> <p>25回：グループアプローチの実際①（鳴井・本間）  ・サポートグループ、セルフヘルプグループの実際の見学【見学】</p> <p>26回：グループアプローチの実際②（鳴井・本間）  ・サポートグループ、セルフヘルプグループの実際の見学【見学】</p> <p>27回：グループアプローチがもたらす効果および課題・ファシリテーターの役割（鳴井・本間）  【講義】【ディスカッション】</p> <p>28回・グループアプローチがもたらす効果および課題（鳴井・本間）  25回～27回の内容を踏まえて、グループアプローチがもたらす効果および課題、高度実践看護師の役割について討議する  【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p> <p>29回：がん薬物療法を継続するために必要な高度実践看護師としての介入についての検討①（越後・鳴井）  【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p> <p>30回：がん薬物療法を継続するために必要な高度実践看護師としての介入についての検討②（越後・鳴井）  【プレゼンテーション】【ディスカッション】</p>
<p><b>3. 教科書、参考書</b>  〈参考書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ編：がん看護コアカリキュラム日本版、手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア、医学書院、2017年</li> <li>・Linda H. Eaton 他著、鈴木志津枝他監訳：がん看護 PEP リソース 患者アウトカムを高めるケアのエビデンス、医学書院、2013年</li> <li>・Mary Fran Tracy 他著、中村美鈴他監訳：高度実践看護 統合的アプローチ、第2版、へるす出版、2020年</li> <li>・井部俊子他監：専門看護師の思考と実践、医学書院、2015年</li> </ul> <p>他、講義の中で適宜紹介する。</p>
<p><b>4. 成績評価方法</b>  授業への取り組み状況 20%、プレゼンテーション・質疑応答の内容 50%、「がん薬物療法を継続するために必要な高度実践看護師としての介入」に関するレポート 30%で総合的に評価する。</p>
<p><b>5. 受講要件</b>  「がん薬物療法看護論」を履修済みの者、CNS（専門看護師）コースがん看護の学生は必修</p>
<p><b>6. 社会人学生に対する配慮</b>  オンライン授業等は相談があれば個別に対応する。オンライン授業の場合はリモートでの同時双方向型授業を行う。</p>
<p><b>7. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題内容について文献検討を行い、プレゼンテーション資料を作成して臨むこと。</li> <li>・状況に応じて Webex meeting または Zoom を用いた遠隔講義を実施する。</li> <li>・オンデマンドの実施不可</li> </ul>